りすのナトキンの話

ビアトリクス・ポター さく・え

たちばな こうじ やく

このおはなしをノラに

これから「おはなし」をするよ ー 「尾の話」ってことさ、小さな赤いリスのね。
リスの名は、ナトキン。
トゥインクルベリーっていう兄さんと、めっぽう大勢のいとこたちと、湖畔の森に住んでいた。

その湖の真ん中には島があり、背の高い樹木や、実のなる灌木に覆われていた。
木々の合間に、中が洞（うろ）になったオークの木が一本立っていて、そこは、老ブラウンと呼ばれるフクロウのすみかだった。

ある年の秋、木の実が熟し、はしばみのしげみが金や緑に色づくころ、ナトキンと、トゥインクルベリーと、その他大勢の小さなリスたちは、森から出て、湖の岸におりてきた。

リスたちは、小枝を組んで小さないかだをこしらえると、水の上をこぎ出した。
フクロウの島へ、木の実を採りに行こうというんだ。
めいめいが、小さな袋と大きな櫂を持ち、自分のしっぽを帆の代わりに張って。

さらにリスたちは、太ったネズミを3匹、供物としてたずさえていた。
老ブラウンへの、敬愛をこめた手みやげにね。
そいつを玄関前の段の上に置き、トゥインクルベリーと小さなリスたちは、おのおの深くこうべを垂れて、うやうやしくこう言ったんだ ー
「老ブラウン様、ぜひわたくしどもに、あなたさまの島で木の実を集めることをお許しいただきたく存じます」

ところがナトキンは、とんでもなく無礼なやつでさ。
小さな赤いサクランボみたいに、ひょこひょこ跳ねて、歌ったんだ ー

　　謎解け 謎解け ラッタッタ！
　　真っ赤な服着た　ちっちゃなやつさ！
　　手には杖持ち 喉には石ころ
　　この謎とけたら　４ペンスあげよ

まあこのなぞなぞときたら、たいそう古くさい代物だから、ブラウン氏は、ナトキンをまるっきり無視した。
かたくなに目を閉じて、寝入ってしまったよ。

リスたちは、持って来た小さな袋を木の実でいっぱいにして、暮れ方になると、いかだをこいで家路についた。

でも次の日の朝になると、一族総出でもう一度、フクロウの島へやってきた。
トゥインクルベリーと他のみんなは、まるまる肥えたモグラを運んできて、老ブラウンの戸口の石畳の上に横たえて、言った一
「ブラウン様、あなたさまの慈悲深いお心をもって、わたくしどもがもう少し木の実を集めることをお許し願えませんでしょうか」

けれどもナトキンは、敬意なんかかけらもなくて、ぴょんぴょこ踊りだすと、年老いたブラウン氏をイラクサでくすぐりながら歌ったー

年よりブラさん！　謎解けやーい！
ヒッティピッティ　かべのなか
ヒッティピッティ　かべのそと
ヒッティピッティ　さわったら
ヒッティピッティ　かみつくぞ！

ブラウン氏はぱっと目を覚まして、モグラを家の中に運びこんだ。

ドアがナトキンの鼻先で閉まり、やがてかすかに一条、まきを燃やす青い煙が木のてっぺんから立ちのぼった。
ナトキンは鍵穴をのぞきこみながら歌った―

　　家じゅういっぱい　穴いっぱい
　　なのにお椀にゃ　すくえない！

リスたちは、島じゅうで木の実を探し回り、小さな袋をいっぱいにした。
なのにナトキンは、黄色や緋色のオークの虫こぶを集めて、ブナの切り株の上に座っておはじき遊びをしながら、老ブラウンの家の戸口を見張ってたんだ。

三日目に、リスたちはうんと早起きして釣りに出かけ、老ブラウンへの貢ぎ物として、脂ののったウグイを七尾捕まえた。
それから湖を渡って、フクロウの島のねじくれた栗の木の下に上陸した。

トゥインクルベリーと6匹のリスたちは、脂ののったウグイを一尾ずつ運んだ。
でもナトキンは、礼儀作法ってものをわきまえちゃいないから、貢ぎ物なんか何一つ持たなかった。
そのくせ先頭きって走った。歌いながら―

荒野で男がおいらにきいた
「海にイチゴはどれだけ生るね？」
おいらはうまく答えたものさ
「森に燻製ニシンが生るだけ！」

でも老ブラウン氏は、なぞなぞにはてんで無関心―
たとえ答えがわかりきっててもね。

四日目には、リスたちは身の詰まったカブトムシを6匹、手みやげにした。
これは老ブラウンにしてみれば、プラムプディングの中のプラムみたいにいいものなのさ。
カブトムシは一つ一つ、ギシギシの葉で丁寧に包まれて、松葉のピンできちんと留められた。
だけどもナトキンは、相変わらず不躾に歌ったよー

　　ブラウンじいや！　謎解けやい！
　　イギリスの粉と　スペインの果実
　　にわか雨んなか　はちあわせたら
　　ふくろかぶせて　ぐるっと縛れ
　　この謎といたら　指輪をあげよ！

あきれたもんだよナトキンには。
老ブラウンにあげられる指輪なんか、ひとつも持ってやしないくせに。

ほかのリスたちは、林じゅうの木の実を集めてまわったってのに、ナトキンときたら、イバラの茂みからコマドリの針刺しをいくつも拾ってきて、そいつにびっしり松葉を刺してた。

五日目、リスたちは、天然のハチミツを手みやげに持って来た。
とても甘くてべとついたので、指をなめなめ、石畳の上に置いた。
このミツは、丘のてっぺんにあるマルハナバチの巣からかすめとってきたんだ。
ところでナトキンはというと、歌いながらぴょんぴょんスキップしてるよー

ブーンブン！ブブ！ブーン！ブブン！
ティップルタインを越えてったとき
かわいいブタの群れにであった
黄色い首のや 黄色い背のや！
いっとうかわいいブタどもだった
ティップルタインを越えてったうちで

老ブラウン氏は、ナトキンの無礼にうんざりと目を上げた。
それでも、ハチミツは残らずたいらげた！

リスたちは、小さな袋に木の実をつめこんだ。
ただしナトキンは、大きな平たい岩の上に座り、野生リンゴとモミの笠で、ボーリングごっこに興じてたけど。

六日目は土曜日で、リスたちは、最後にもういっぺんやってきた。
小さなイグサのかごで運んできた産みたてタマゴは、老ブラウンへの最後の進物、お餞別だった。
けれどナトキンは、けたけた笑いながら、真っ先に駆けて、大声をはりあげる―

ハンプティダンプティが川のなか
首に白い上掛け巻いて
40人の医者と40人の職人でも
ハンプティダンプティは直せない！

さて、老いたブラウン氏は、タマゴに気をひかれたようで、片目を開けて、また閉じた。
しかしやっぱり何も言いはしなかった。

ナトキンはいっそう調子づきー

　　ブラブラじいさん！　ブラじいさん！
　　ヒッカモアとハッカモアが　王様の厨房の扉の上に
　　王様の全部の馬と　王様の家来みんなでも
　　ヒッカモアとハッカモアは　追い払えやしないのさ
　　王様の厨房の扉の上から！

ナトキンは陽光みたいに踊り狂った。
それでもまだ老ブラウンは黙りこくっていた。

ナトキンは重ねておっぱじめたー

アーサー・オバウアー 枷をこわし
おたけびあげて この地へせまる！
スコットランド王の 総力あげたって
追い返せない バウアーんちのアーサー！

ナトキンはピューピュー風のようなやかましい音を立て、そうして、助走をつけて飛び乗ったんだ、老ブラウンの頭をめがけて！...
とたんに起こったのは、バサバサいう羽ばたきと、どたばたの取っ組み合いと、
「キィーッ！」という甲高い叫び。
他のリスたちは、あたふた茂みの中に逃げこんだ。

みんながおそるおそる戻ってきて、木の後ろからのぞくと一 老ブラウンが戸口の前に座ってた。微動だにせず、目を閉じて、まるっきり何事もなかったみたいさ。

※

ナトキンがチョッキのポケットにつっこまれてるのを除けば！

これにて一巻の終わり、ってふうに見えるだろ。
ところがどっこい。

老ブラウンは、ナトキンを家の中に運ぶと、しっぽをつかんで持ち上げた。皮を剥ぐつもりでね。
でもナトキンが死にものぐるいでひっぱったもんだから、しっぽは二つにひっちぎれた。
ナトキンは階段を駆け上がり、屋根裏の窓から逃げ出したのさ。

それからっていうもの、木の上でナトキンに会って、なぞなぞをしかけようものなら、あいつは小枝を投げつけて、地団駄ふんでののしり、そうしてこう怒鳴るのさー
「シッ、シッ、シッ、シィーッ、シッシ！」

おしまい

あとがき

★おまけの訳注

※「おはなし」と「尾の話」
　原文が tale と tail の同音異義語をかけてるので
※虫こぶ
　植物の内部に昆虫が卵を産み付けてできる、こぶ状の突起。
　「コマドリの針刺し」（原文robin's pincushion）も、イバラにできる虫こぶらしいが、こぶというよりアザミの花のような形。
※プラムプディング
　クリスマスに食べるイギリスの伝統的菓子。
　蒸している間に膨らむので、かぶせものをして紐でくくるらしい。
　または蒸した後、袋に入れて紐で吊るすらしい。
　生地に指輪やコインなどを混ぜ込む風習があるらしい。
※ヒッティピッティ、ティップルタイン等、謎の中に出てくる謎の単語
　おそらくそれ自体には意味のない言葉だと思ったので無理に訳しませんでした。
　また、ティップルタインのなぞなぞに「nacked」という単語があるんですが、そんな単語は見つからず、どうもneckedと解釈していいらしいので「首」と訳してあります。あしからず。
　後ろの「backed」と韻を踏むためにeをaにしたとか……？
　日本風に言えば「こんにゃくこんにゃくう？」みたいなノリでしょうか違うでしょうか。
※ナトキンの最後の言葉
　よくわからなかったんで、怒ってるのと謎はもうこりごりって意味をこめて、あっち行けの「シッシ」と、黙れの「シィー」とをかけた感じで訳してみました。
※なぞなぞの答え
　すべて、同じページ内の単語が答えになっていて、原文ではその部分がイタリック体になっているのでHTMLでは太字で表示されるようにしました。余計なことだったかもしれませんが。

ポター作品リスト

Beatrix Potter作品の日本における著作権は消滅し、パブリックドメインに帰しています。
翻訳の底本はFREDERICK WARNE出版の The original and authorized edition です。

1. The Tale of Peter Rabbit (1902) 【ピーターラビットの話：2012.3】
2. The Tale of Squirrel Nutkin (1903) 【りすのナトキンの話：2012.3】
3. The Tailor of Gloucester (1903) 【グロスターの仕立屋：2012.4】
4. The Tale of Benjamin Bunny (1904) 【ベンジャミンバニーの話：2012.3】
5. The Tale of Two Bad Mice (1904) 【二匹のいたずらねずみの話：2012.12】
6. The Tale of Mrs. Tiggy-Winkle (1905) 【ティギーウィンクルさんの話：2012.5】
7. The Tale of the Pie and the Patty-Pan (1905) 【パイと焼き型の話：執筆中】
8. The Tale of Mr. Jeremy Fisher (1906)
9. The Story of A Fierce Bad Rabbit (1906) 【あらくれやくざうさぎ物語：2012.12】
10. The Story of Miss Moppet (1906) 【モペット嬢物語：2012.12】
11. The Tale of Tom Kitten (1907) 【子ねこのトムの話：執筆中】
12. The Tale of Jemima Puddle-Duck (1908)
13. The Tale of Samuel Whiskers or, The Roly-Poly Pudding (1908)
    【サミュエル・ウィスカーズの話 もしくは、うずまきプディング：2013.4】
14. The Tale of the Flopsy Bunnies (1909) 【フロプシーのちびっこたちの話：2012.4】
15. The Tale of Ginger and Pickles (1909) 【ジンジャーとピクルズの話：2013.1】
16. The Tale of Mrs. Tittlemouse (1910)
17. The Tale of Timmy Tiptoes (1911)
18. The Tale of Mr. Tod (1912) 【ミスタートッドの話：2012.11】
19. The Tale of Pigling Bland (1913) 【ピグリンブランドの話：2013.12】 **NEW**
20. Appley Dapply's Nursery Rhymes (1917) 【アプリィ・ダプリィの童謡：2012.4】
21. The Tale of Johnny Town-Mouse (1918)
22. Cecily Parsley's Nursery Rhymes (1922) 【セシリ・パセリの童謡：2012.4】
23. The Tale of Little Pig Robinson (1930) 【こぶたのロビンソンの話：執筆中】

原文参照：

Project Gutenberg ： Books by Potter, Beatrix

Arthur's Classic Novels / Beatrix Potter

りすのナトキンの話

http://p.booklog.jp/book/47604

作者：ビアトリクス・ポター
訳者：橘 柑子
作者プロフィール：http://ja.wikipedia.org/wiki/ビアトリクス・ポター
訳者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/tokijikudou/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/47604

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/47604

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.